

雄大な自然に囲まれて、
楽しく農業を続けていきたい



地の利を活かした米づくり
新たな特産品にもチャレンジ中

雄大な自然に囲まれた地域で農業に励んでいます。サルを中心とした獣害が多く、対策は大変ですが、この地域に生まれ育って良かったと思うのは、「お米がおいしい」と心から感じることです。水温が真夏でも17〜18℃と低く、冷たい水を夜に引き込むことで、粒は小さいものの、ぎゅっと引き締まっておいしいお米ができます。そういった特性を活かして付加価値の高い米を作ろうと町内の農家で取り組みを進めるほか、水稻育苗ハウスを活用して新たな特産品を生み出そうと、シャインマスカットの栽培も始めています。植付け後4年目から本格的な収穫を開始するため、3年目の今年は試験的に収穫を行い、確かな手応えを感じています。



▲シャインマスカットは、皮ごと食べられる大人気のフルーツ。町内複数の農家が栽培に着手し、新たな特産品の誕生に期待が高まっています。

楽しい農業を目指し
共同で農園を経営



▲「K農園」として育てた野菜類は、直売所をはじめ学校給食などへ出荷しています。

2戸の農家が集まり「K農園」としても農業を営んでいます。15年ほど前、当初は妻と近隣宅の奥さんが意気投合して「獣害が多い中山間地域でも楽しく農業ができる」と証明したいと始めたことですが、今では私も参画して和気あいあいと取り組んでいます。現在はハウス1棟でトマト、もう1棟でメロンをメインに栽培しています。露地ではピーマンやサトイモなどのほか、古代米も作付けしています。基本的に農業は身体が資本なので、「健康に気を付けながら長く続けていけるようがんばろう」と話しています。

農業に関心のある人がチャレンジ
できる仕組み作りを進めたい

私たちの地域における農業は、やはり稲作が中心です。そのため、例えば定年後に農業を始めたいと思っても、設備を整えるのが大きな負担となります。そこで、就農したいと思う人が少しでも働きやすい仕組みを作ることが、今、この地域農業に求められているのではないのでしょうか。幸い、私たちの地域においても、獣害を避けながら、多彩な品目を作付けすることが可能です。稲作に限らずとも参入の間口を広げ、大規模農家だけに地域の農業を支えてもらうのではなく、小規模農家も前向きに農業に取り組むことが持続可能な地域農業や地域社会の形成に欠かせない、大切なことだと思えます。



▲栽培するウメの生育を確かめる栗本さん。「農業は定年が無い仕事。無理なく身体を動かし、長く働き続けたい人には最適」と話します。

プロフィール
Profile

た がちようくる す
多賀町栗栖

くり もと むね お
栗本 宗男さん(71)

主な生産作物

[個 人] 水稻・果樹

[K 農 園] 野菜類

[農 事 組 合 法 人] 水稻・多賀そば
[プチファームくるす]



▲趣味で集め育てる多肉植物は、なんと500鉢以上